

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

回答数10

公表:令和 3 年 2 月 26日

事業所名 キッズベランダBe

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	2	1	フィールドで遊べる十分なスペースがあります。特色の一つです。	1人ひとりにあった落ち着けるスペースがあるとよいので、屋外も含め更に工夫を重ねていきます。
	2	職員の配置数は適切である	8	1	1	加配できるように取り組んでいます。	専門性を高めていくのはもちろんですが、日々の関りをより大切にしていきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6	3	1	段差について、スロープを設けるなど工夫しています。	エントランスが木造の為、傷んできています。傷んできている点については、年度毎に改善に取り組んでいきます。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8	1		日々のミーティングの中で課題等も確認しながら、改善に取り組んでいます。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	1			回答率が低い為、高めていくためにも声掛けをおこなっていき、よりよい運営に努めていきたいです。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10			ホームページに毎月プログラムをアップして、ホームページへのアクセスを促す工夫をしています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	7	2	1	外部の方の目が届くようにも、外部講師の方々に日々お越しいただいています。	準備検討をおこなっていきます。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10			外部研修は今年度は難しい面もあったが、「自ら学ぶ」そんな姿勢を大切に自学習を推奨しています。学ぶ機会を年間とおして計画だてておこなってまいります。	
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	9	1		日々のミーティングでのスタッフ同士での情報交換をおこない、アセスメントに反映しています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	1	ツールとしては法人共通のアセスメントの書式を用意して取り組んでいます。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10			外部のインストラクターの方にも協力いただき、活動プログラムを毎月立案し情報を紙面やWEBで確認できるようにしています。	自然豊かな環境があるため、事業所の特色をさらに生かせるよう努めていきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	9	1		年間を通して様々な意見を取り入れながらプログラム作成をおこなっています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8	2		毎日プログラムが工夫しています。	季節感も重要なファクターなため、環境整備にも努めていき、活用していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1		一人ひとりに合わせて、柔軟に対応しています。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10			役割などは特にミーティング等で確認しあうようにしています。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9		1	ミーティングに参加できないスタッフへも紙面に確認できるようにして、抜け漏れがないようにしています。	紙面だけでは伝わりづらい内容もあり、スタッフ間での互いの声掛けを大切にしています。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10			日々の記録については計画立案に関して有効に活用しています。	スタッフ間での互いに指摘しあえる関係づくりも意識していきます。
	18	定期的モニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10			見直すことは、新たな気づきの場としても捉えて活用しています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	9		1	集団での活動の中にも個別での課題など様々な要素を取り入れて構成しています。	
関係機関 や保護者 との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	9	1		参画したものは、スタッフ間での情報共有をするようにしています。スタッフ間でのフィードバックをおこない、支援の現場に活かしています。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10			学校によってだけでなく、児童によっては細かな点で違う対応が必要になることもあるため、お一人ずつ確認しています。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	1	1		ご利用の相談があれば対応していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	3	2		一人ひとりに合わせて、柔軟に対応していきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	7	1	1	相談員等を通じての情報提供のパターンがほとんどです。卒業後の進路は必ず確認させていただいています。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	7		1	法人内に児童発達支援センターもあるため、連携がとりやすいです。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	8		1		例年、行事で交流する機会がありますが、今年は難しい面もありました。来てもらう、一緒に出掛ける、そんな仕掛けをしていきたいと思っています。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	2	2	子どもの部会の立ち上げも昨年始まりました。今年度はコロナ禍もあり、集まり自体はありませんが機会があれば積極的に参加していきます。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	1		ご家庭で連絡張を用意していただき、日々の連絡のやりとりをさせていただいています。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4	3	1	日々のやりとりの中で、お互い励ましあいながら関わることが大切だと考えています。	支援プログラムとしてはあまり認識されていない現状があります。保護者の困りごとなどに耳を傾けながら、寄り添う形で行っていきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7		2	利用開始の契約時に丁寧な説明を心がけています。できること、できないこともあります。基本的には相談しながら行っていききたい旨もお話させていただいています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	3		子育てを一緒に楽しめるよう、相談など気軽にできるようにイベントなども開催しています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	2	2	保護者間での仲間づくりを目的にイベントなど発信しています。	保護者同士がイベントなど話しこんだりする場面も見られます。まずはそういった場の提供をおこなっていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8	1		迅速な対応を心がけています。苦情へと発展する前に相談のやり取りをさせていただいています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1		月1回"お知らせプログラム"と称して発送させていただいています。	
	35	個人情報に十分注意している	8	1		取り扱いには十分注意しています。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8	1		わかりやすさへの配慮をおこなっています。絵やイラストなども活用しながら情報伝達をおこなっています。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8			町会とも連絡を取り合い、回覧版なども活用しながら行っています。	
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6	2	2	特に感染症の時期には注意喚起をおこなっています。	スタッフ間で漏れがないように設置場所を明確に周知しておきます。
非常時等の対応	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	9			年2回の避難訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9			倫理的観点も踏まえて一人ひとりがチェックする機会を設けてもいます。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	8	1		身体拘束がどのようにあたるのかを十分に検討をおこないながらことあたりに考えていますが、今現在は記載にいたる児童はいません。	身体拘束について他の事業所の例などをとくに学習や確認する機会を増やしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	1	1	アセスメントの中で指示書などの有無を確認している。	嗜好は本人理解をする上で足がかりになることが多いです。保護者との面談時などにも積極的にお聞きしていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9			事業所内でヒヤリハットの内容を情報共有しています。	